

メッセージアウトライン

ローマ 8 : 31~39 「神が私たちの味方であるなら」

[31] 「では、これらのことからどう言えるでしょう。神が私たちの味方であるなら、だれが私たちに敵対できるでしょう」

神が私たちの救いを定め、決定された以上、誰が私たちに敵対し、反対できるのか。神は私たちの味方となってくださった。ここは1~8章の結論といってもよい個所である。

[32] 「わたしたちすべてのために、ご自分の御子をさえ惜しまずに死に渡された方が、どうして、御子といっしょにすべてのものを、私たちに恵んでくださらないことがありますでしょう」

自分のたった一人の子を赤の他人のために死に渡す親がどこにいるのか。しかし、神はそのことをなされた。それほどまでに私たちが愛してくださった神ならば、その他のものを何も惜しまずに私たちに恵み与えてくださることも当然おできになる。

[33-34] 「神に選ばれ人々を訴えるのはだれですか。神が義と認めてくださるのです。罪に定めようとするのはだれですか。死んでくださった方、いや、よみがえられた方であるキリスト・イエスが、神の右の座に着き、私たちのためにとりなしをしていてくださるのです」

ここでは裁判の場面を思わせるが、誰かが私たちに訴え、罪に定めようとしても、神が義と認めてくださり、私たちの罪のために死んでよみがえってくださったキリスト・イエスがとりなしをしてくださるので、誰も私たちが有罪とすることはできない。

[35-36] 「私たちがキリストの愛から引き離すのはだれですか。患難ですか、苦しみですか、迫害ですか、飢えですか、裸ですか、危険ですか、剣ですか。……」

パウロ自身がこれらのことを体験してきた。→Ⅱコリント11:23~27 彼はキリストの福音を宣べ伝えたがゆえに様々な苦しみにあったが、そのような苦しみも彼をキリストの愛から引き離すことはできなかった。彼だけでなく信仰を同じくする私たちが受けるあらゆる苦しみも、私たちがキリストの愛から引き離すことはできないのである。36節は詩篇44:22からの引用。

[37] 「しかし、私たちは、私たちが愛してくださった方によって、これらすべてのことの中にあっても、圧倒的な勝利者となるのです」

キリスト・イエスにある者は、「私たちが愛してくださった方」すなわち神によってどのような苦難の中でも敗北者ではなく圧倒的な勝利者となることができるのである。

[38-39] この箇所は今日の結論であり確信のことばであり、賛美のことばである。

「死、いのち」…ともに人間を支配している巨大な原理であり力。「御使い、権威ある者」…霊的領域における勢力。「今あるもの、後に来るもの」…現在と将来において存在する一切のもの。「力ある者」…今現実に権威を持っている者。「高さ、深さ」…高い天上を支配している勢力、深いよみ（死後の世界）を支配している勢力。「そのほかのどんな被造物」…神が造られたその他のすべての被造物。パウロはこのようなあらゆる分野におよぶ表現を用いて、どのような苦しみの背後にある勢力も、私たちの主キリスト・イエスにある神の愛から私たちが引き離すことはできないと強調する。